

統合物語生成システムの動詞概念格構造における 名詞概念の制約の再検討

Analysis for Extending the Constraints for Noun Concepts in the Verb Conceptual Structures in an Integrated Narrative Generation System

荒井 達也[†], 小方 孝[‡]
Tatsuya Arai, Takashi Ogata

[†]岩手県立大学大学院, [‡]岩手県立大学

Graduate School of Iwate Prefectural University, Iwate Prefectural University
g231p002@s.iwate-pu.ac.jp

Abstract

In the verb concept dictionary of an Integrated Narrative Generation System, each verb concept has various constraints. The Integrated Narrative Generation System generates an event based on constraints of a noun concept in the case structure of a verb concept. In this paper, we acquired such constraints of events based on novels in Aozora Bunko, and classified the acquired constraints. For this study, we acquired the constraints of the part corresponding to the N2 case of the verb concept “eat” in the sentence pattern “N1 eat N2.” In addition, we compared the conventional constraints with the acquired constraints and proposed an improvement plan for the constraints of the verb concept.

Keywords — Narrative Generation, Conceptual Dictionary

1. はじめに

Ogata が提案する統合物語生成システム (Integrated Narrative Generation System: INGS) [1]では, ストーリー生成を行う際, 動詞概念辞書[2]中の動詞概念の格構造における名詞概念の制約に基づいて事象の生成を行っている. 現状, 「男が牛を食べる」といった事象が生成されるが, 常識的には「男が牛肉を食べる」の方が望ましい. 一方荒井らは, INGS における知識ベース中の事象連鎖(スクリプト)知識を「青空文庫」¹中の小説の動詞の連なりから獲得する研究を行っている[3]. この研究では, 獲得された事象連鎖知識を具体化するために, 各事象の格構造への値設定処理が必要になるが, その際実際の小説における対応する文を参照して値を設定する. 従ってここで得られたデータを格構造における制約を指定するものとして位置付けることができる. 本研究では, 事象連鎖知識における格構造に具体的な値を設定する処理の際に得られる制約データをもとに, INGS における既存の制約情報(動詞概念辞書における各動詞概念のための格構造における名詞概念の制約情

報)を拡張・修正する作業を行う.

2. 動詞概念辞書

INGS における概念辞書[2]は, 名詞概念辞書, 動詞概念辞書, 副詞概念辞書, 形容詞概念辞書, 形容動詞概念辞書の 5 つからなり, 本稿では動詞概念を格納する動詞概念辞書を扱う. 動詞概念辞書において, 動詞概念はそれぞれ文型パターンと格構造を持っており, 格構造中の制約条件は名詞概念に関連付けられている. 図 1 は, 動詞概念「食べる 2」の実際の記述である.

```
((name 食べる 2)
(sentence-pattern "N1 が N2 を 食べる")
(case-cons-set
((case-frame ((agent N1) (counter-agent N2)
(location N3)))
(constraint ((人 -死人 -人間 (人称) -準人間)
(獣[鯨] 獣[馬] 獣[牛] 獣[豚] 獣
[山羊] 獣[羊] 獣[鹿] 獣[猪] 獣
[兔] 鳥[家禽] 鳥[猟鳥] 魚 -魚
[伝説] たこ・いか・えび・かに)
(場所 -交通路 -公共施設{その他}
-地域 -崖 山{部分} 平地 岸))))
((case-frame ((agent N1) (location
N3) (object N2)))
(constraint ((人 -死人 -人間 (人称) -準人間)
(食料 -調味料 -飲物・たばこ)
(場所 -交通路 -公共施設{その他}
-地域 -崖 山{部分} 平地
岸))))
(is-a (v 身体動作)))
```

図 1 動詞概念「食べる 2」の記述

以下, 「青空文庫」中の小説から, 図 1 における文型パターン「N1 が N2 を食べる」中の N2 格にあたる部分から, 動詞概念「食べる 2」の新たな制約の獲得を行う.

3. 小説群からの制約条件獲得

具体例として, 図 1 の動詞概念「食べる 2」を用いて制約条件を獲得する. ここでは単純に, テキスト中の動詞「食べる」において, 次の条件を満たす場合に

¹ 青空文庫, <http://www.aozora.gr.jp/>

限り、名詞を取得する。

- ① 動詞「食べる」の前の助詞が「を」である
- ② 助詞の前が名詞である

「青空文庫」中の 13,331 の小説から、延べ 2,830、同じものをまとめて 812 の名詞を得た。表 1 に獲得したデータの出現頻度の多い順に 10 個、同じく少ない順に 10 個示す。

表 1 獲得した名詞の出現頻度 上位 10 個/下位 10 個

頻度上位 10 個	出現頻度	頻度下位 10 個	出現頻度
もの	180	葉莖	1
御飯	154	もみ	1
物	139	好物	1
それ	115	油虫	1
飯	95	中華ソバ	1
何	63	バクテリア	1
弁当	54	にんにく	1
夕飯	53	すき焼き	1
朝飯	37	皇子	1
御馳走	36	樹木の実	1

表 2 現状の「食べる 2」制約(条件)

制約 (1)	獣[鯨] 獣[馬] 獣[牛] 獣[豚] 獣[山羊] 獣[羊] 獣[鹿] 獣[猪] 獣[兎] 鳥[家禽] 鳥[猟鳥] 魚-魚[伝説] た こ・いか・えび・かに
制約 (2)	食料・調味料・飲物・たばこ

INGS の現状において、図 1 の動詞概念「食べる 2」は、表 2 に示すように、2 種類の制約を持つ。次の 2 つ手順で、獲得した名詞を制約と見做す。

- ① 獲得した名詞と、INGS における名詞概念の有無の確認
- ② 獲得した名詞で INGS に対応する名詞概念がある場合、獲得した名詞が INGS における動詞概念中の格構造における名詞概念の制約に含まれているかの確認

その結果、表 2 の制約(1)に該当する制約が 29 種あった。同じく、制約(2)に該当する制約が 167 種あった。表 3 に制約(1)、制約(2)に該当する制約を出現頻度が多い順に 10 個ずつ示す。

さらに、制約(1)、(2)のどちらにも該当しない制約が 616 種あった。そのうち、概念辞書に未格納の制約が 322 種であった。制約(1)、(2)には含まれないが終端概念として名詞概念辞書に格納されている制約が 294 種あった。本稿では、制約(1)、(2)に含まれないが終端概念として名詞概念辞書に格納されている 294 種の名詞について、実際の小説中の名詞を含む 1,155 個の文と

一緒に分類を行う。

表 3 制約(1)、(2)に該当する制約(上位 10 個)

制約(1)	出現個数	制約(2)	出現個数
肉	32	御飯	154
魚	18	飯	95
鰻	8	弁当	54
鮎	6	夕飯	53
鶏	3	朝飯	37
ふぐ	3	御馳走	36
河豚	3	ごはん	35
うなぎ	3	パン	33
鮭	2	朝食	30
蟹	2	料理	30

今回は試験的に、139 種の獲得した名詞とそれらを含む小説中の 496 の文を用い制約の分類を行う。より詳細な分類を行うために、獲得した名詞を終端概念として格納している上位概念も共に分類を行う。獲得した名詞は複数の上位概念を持つが、今回は筆者が名詞を含む小説中の文と上位概念を比較し、適当だと考えるものをそれぞれ一つずつ選択した。さらに上位概念、獲得した名詞、その名詞を含む小説中の文を、表 4 に示す 4 つの基準から筆者が適当だと考えるものに分類を行った。付録に獲得した名詞の分類結果をそれぞれ 1 つずつ示す。表 5 は、獲得した名詞「お昼」を含む文の一覧である。

表 4 獲得した名詞の分類とその基準

分類	基準
食べ物以外の制約	常識的に考えて食べないもの
制約外の食べ物	制約(1)、(2)に該当しない食べ物
「食事する」行為	食事を表現するもの
代名詞	代名詞であるもの

4. 新たな制約の提案

前節において、獲得した名詞の分析を行った結果、付録の分類における制約外の食べ物と「食事する」行為に分類された名詞を新たな制約として動詞概念「食べる 2」に追加する案を提案する。制約の追加を行う際、獲得した名詞の上位概念が持つ終端概念を筆者が調査し、制約として適当と考えられる場合、終端概念を直接制約に追加した。また、一部適当でない制約については、「**毒草**」のように上位概念「**きのこ**」から「**毒草**」を除いた制約を追加した。獲得した名詞は制約として当てはまるが、その上位概念が制約に当てはまらないものについては、獲得した名詞のみを制約に

表5 獲得した名詞「お昼」の分類結果

分類	上位概念	獲得した名詞	獲得した名詞を含む文	著者名	作品名
「食事する」行為	昼	お昼	。「うれしい。お昼を食べましょう。授業は	片岡義男	東京青年
			あなたは？ お昼を食べにいきましょう」	片岡義男	夏と少年の短篇
			、その店でお昼を食べてバスで帰って	片岡義男	夏と少年の短篇
			と一緒に昼を食べる約束で待っている	佐々木邦	恩師
			である。お昼を食べない家は、現在	柳田国男	母の手毬歌
			の片々でお昼を食べるのが、今とても	柳田国男	母の手毬歌
二時にお昼を食べるときまでは、なに	アントン・チャーホフ 神西清訳	少年たち			

追加した。図2は今回提案する新たに制約を追加した動詞概念「食べる2」である。図において、イタリック体の部分が今回追加した新しい制約にあたる。

獲得した名詞の分類における食べ物以外の制約について、現状 INGS では逸脱した内容を含む事象を生成するために異化修辞[4]を用いた生成を行っている。今回獲得した食べ物以外の制約について今後異化修辞を用いた事象生成の際に利用すること検討する必要がある。また、獲得した名詞の分類における代名詞について、現状名詞概念辞書に代名詞を格納しているものの事象生成の際、代名詞を含む事象の生成は行っていない。今後、代名詞を含む事象の生成を行う場合、INGSの表現機構の課題となるがここでは言及しない。

```

((name 食べる2)
(sentence-pattern "N1がN2を食べる")
(case-cons-set
((case-frame ((agent N1) (counter-agent N2)
(location N3)))
(constraint ((人-死人-人間<人称>-準人間)
(獣[鯨] 獣[馬] 獣[牛] 獣[豚] 獣
[山羊] 獣[羊] 獣[鹿] 獣[猪] 獣
[兎] 鳥[家禽] 鳥[猟鳥] 魚-魚
[伝説] たこ・いか・えび・かに)
(場所-交通路-公共施設{その他}
-地域-崖 山{部分} 平地 岸))))
((case-frame ((agent N1) (location
N3) (object N2)))
(constraint ((人-死人-人間<人称>-準人間)
(食料-調味料-飲物-たばこ 野菜
果物 肉・卵[肉]-腐肉 野菜[豆]
肉・卵[卵] きのこと-菌-毒茸 野菜
[根菜] 貝[二枚貝] 果物[核果] 残
存[残り]-余し-生き残り-残し
野菜[ハーブ] 果物[梨果] 果物[ベ
リー] 麺類[蕎麦] 肉・卵[鶏肉] 実
果物[柑橘類] にんにく ミルク 玉
蜀黍 ジャム 氷 茶 根 栗 若芽 塩
唐辛子 午名物 柿 脂 汁 麦 粉 シ
ロップ 甘味 皮 残飯 鶴 燕麦 もち
食事[朝餉] 食事[粗餐] 齋 午餐 お
昼)
(場所-交通路-公共施設{その他}
-地域-崖 山{部分} 平地
岸))))
(is-a (v 身体動作)))
    
```

図2 制約を追加した動詞概念「食べる2」

5. 課題

名詞を含む文を抽出する際、「ねずみや油虫を食べて

生きて」といった「食べる」の対象が2つあるものに対し、「を食べる」の直前の「油虫」しか抽出することが出来なかった。動詞の対象が複数ある場合、複数の対象を抽出することが望ましいため今後の課題とする。

獲得した名詞「もち」を終端概念としてもつ上位概念を決定する際、名詞の表記ゆれによって正しい上位概念を決定することが出来ない事例があったが、INGS内の表記を取りまとめる言語表記辞書を用いることである対応が可能であると考えられる。また、獲得した名詞を終端概念としてもつ上位概念を決定する際、上位概念「果樹」としての「柿」は名詞概念辞書に格納されているが、上位概念「果物」としての「柿」は名詞概念辞書に格納されていないことが分かった。この問題は名詞概念辞書の問題となり、今後名詞概念辞書に格納される名詞の終端概念の分析の必要があると考えられる。

6. おわりに

本稿では、動詞概念「食べる2」を例に動詞概念の制約の再検討を行い、動詞概念「食べる2」の新しい制約の提案を行った。今後、前節で述べた課題への対策を行うとともに、他の動詞概念についても制約の獲得・調査を行い、制約の改善を行う。

参考文献

- [1] Ogata, T., (2016) "Computational and cognitive approaches to narratology from the perspective of narrative generation", In Ogata, T. & Akimoto, T. (Eds.), Computational and Cognitive Approaches to Narratology, pp.1-73, Hershey, PA: IGI-global.
- [2] Ogata, T., (2015) "Building Conceptual Dictionaries for an Integrated Narrative Generation System", Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, pp.270-284.
- [3] 荒井 達也・小方 孝, (2017) "小説群からの動詞をベースとした事象連鎖の獲得と利用", 『2017年度人工知能学会全国大会(第31回)予稿集』, 1D2-OS-29a-5in2.
- [4] 小野 淳平・張 一可・小方 孝, (2012) "概念体系の制約を利用した事象に対する異化の修辞とシナリオ生成", 『2012年度人工知能学会全国大会(第26回)予稿集』, 1N1-OS-1a-1.

付録 獲得した名詞の分類結果

分類	上位概念	獲得した名詞	獲得した名詞を含む文	著者名	作品名
食 べ 物 以 外 の 制 約	昆虫[半翅目]	油虫	は、ねずみや油虫を食べて生きているの	岡倉覚三	茶の本
	教師	先生	だよ。決して先生を食べてしまったりして	宮沢賢治	クねずみ
	姉	姉	——私は、姉を食べて大きくなったよう	渡辺温	可哀相な姉
	人間[総称]	皆	きぐらいをこしらえ皆を食べさせた。三	宮本百合子	小祝の一家
	土[泥]	泥	、赤茶色の泥を食べているのである	宮本百合子	日は輝けり
	栄養素	養分	ね、他人の養分を食べて、それを消化	太宰治	渡り鳥
	鳥	ひよこ	ている鶏のひよこを食べようかと思いまし	林芙美子	お父さん
	農薬	ナフタリン	さのあまり、ナフタリンを食べて、死んだ	太宰治	古典風
	草	青草	立っている。青草を食べているのである	国枝史郎	神秘昆虫館
	葉	葉っぱ	スエ子はろくに青い葉っぱを食べられなかつたのよ	宮本百合子	獄中への手紙 一九四三年(昭和十八年)
	両生類[蛙]	蛙)の一隅で蛙を食べている知合(しりあい	吉行エイスケ	飛行機から墜ちるまで
	品質	品	が、確かな品を食べさせてくれるので、	豊島与志雄	猫先生の弁
	糸	糸	口にくわえ、糸を食べながら、できるだけ早くビスケット	ロマン・ローラン 豊島与志雄訳	ジャン・クリストフ 第二巻 朝
	男	彼	であるから、彼を食べるに違ひない人々	桑原隲藏	支那人間に於ける食人肉の風習
	目的	志	、与八さんに志を食べてもらうんだから	中里介山	大菩薩峠 みちりやの巻
	机	テーブル	五六品のテーブルを食べましたが、食事	坂口安吾	裏切り
	思想	思想	や太郎兵衛は思想を食べて生きてるんじゃ	五幕七場	女の一生
	女	年増	、油ぎった大年増を食べてみる気になっ	中里介山	大菩薩峠 新月の巻
	獣[コウモリ]	蝙蝠	でも、猫は蝙蝠を食べるかしらん」そろそろ	小栗虫太郎	方子と末起
	屑・粕	ごみ	娘)、「ごみを食べて困る赤ん坊)、	谷譲次	踊る地平線 テムズに聴く
	連続	続き	彼女の雑談の続きを食べた。配達に	谷譲次	踊る地平線 長靴の春
	家族	家族	人々と、その家族を食べさせるには、芸術	中井正一	美学入門
	男	僕	悪者! 僕を食べたいんだらう、	マリイ・ウォルステンクラフト・シェリー 尖戸儀一訳	フランケンシュタイン
	子	子供	は千人の子供を食べる鬼子母神様の生れ変りな	中里介山	大菩薩峠 他生の巻
	草花・野草	道草	へ走り出す。「道草を食べないでおいでよ」	中里介山	大菩薩峠 Ocean の巻
	植物[個体]	植物	、おとなりの植物を食べます。そんなことを	鈴木三重吉	かたつむり
	影	影	不知)水の上の影を食べたの匂ひに	伊東静雄	わがひとに与ふる哀歌
	人情	心	妻はぜひとその心を食べ、噛み砕いて呑	国枝史郎	娘煙術師
	遊び道具・運動具[人形]	人形	富士春が、人形を食べたいと申します」	直木三十五	南国太平記
	唇[くちびる]	唇	そして、自分の唇を食べるやうに劇しく噛	坂口安吾	竜博士の廃類
	涙	涙	が、与里の涙を食べるためではあるまい	坂口安吾	竹藪の家
	若者[女]	女	押入の中の女を食べてしまったのです	坂口安吾	文学のふるさと
	魔物・化物[怪獣]	怪物	とにかく、この怪物を食べてくれようと	坂口安吾	ラムネ氏のこと
	実体	中身	なり、人に中身を食べてもらって、あと	坂口安吾	わが工夫せるオジャ
	空気	空気	もともと仙人とは空気を食べてたふうのもの	長谷川時雨	平塚明子(らいてう)
	興隆	盛り	をこしらえて、盛りを食べるやうにして食	中里介山	百姓弥之助の話 第一冊 植民地の巻
	出版物	本	。「犬に本を食べさせたりしないこと	久生十蘭	だいこん
	灰	灰	だったので、灰を食べても雑作なくなおっ	宮本百合子	日記 一九二三年(大正十二年)
	部分	所	、そんな結構な所を食べさせてはならない	薄田泣菫	茶話 大正七(一九一八年)
	昆虫[直翅類]	蝗	藤原氏は、蝗を食べ過ぎたヨハネのやう	薄田泣菫	茶話 大正八(一九一九年)
	動物[個体]	動物	であるが、動物を食べたのは数ヵ月	佐藤垢石	岡ふぐ談
	肥料	肥料	雑木も水と肥料を食べ足りたやうに、	佐藤垢石	淡紫裳
	動物[個体]	子	て、蜂の子を食べるのにザザ虫を食えん	佐藤垢石	ザザ虫の佃煮
	樹木	木	「ヒツジがちいさな木を食べるんなら、花も	アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ 大久保ゆう訳	あのときの王子くん
	生物	生物	方ですから、生物を食べなくなってからの	小村雪岱	泉鏡花先生のこと
対称[単数]	あんた	誰も、あんたを食べさせるついでいやしない	岸田國士	かんしやく玉	
虫	虫	に僕がこの虫を食べて見せましょう」	岡本かの子	唇草	
姦淫	色	の味以外に色を食べる香気(にほひ	薄田泣菫	茸の香	

	獣[鼠]	鼠	の次ぎには鼠を食べる猫が来ます。	アンリイ・フ アブル 大 杉栄、伊藤野 枝訳	科学の不思議
	自称[単数]	私	ありさまで、私を食べさせて勉強させ	三好十郎	肌の匂い
	足	足	なった自分の足を食べてしまった。でも	北大路魯山 人	料理の第一歩
	同士	類	、柿などの類を食べるけれども、後には	中里介山	法然行伝
	自分	自分	でも何でも自分を食べて死なせてほしい	紫式部 与 謝野晶子訳	源氏物語 手習
	出版物[聖典]	聖典	の持っている聖典を食べてしまうあたり、 豊か	斎藤茂吉	リギ山上の一夜
	他称[単数/男]	奴	、天茶という奴を食べる。そりゃあ、結構 な	古川緑波	下司味礼讃
	光[光線][可視 光線]	光	はまた朝の光を食べる。落葉松(からまつ	北原白秋	海豹と雲
	樹木[その他]	桑	遅れる。蚕が桑を食べるに充分にそれらを	北原白秋	雀の卵
	魔物・化け物[怪 獣]	人魚	た。これが人魚を食べた常陸坊のまた	柳田国男	山の人生
	草	草	は虫がこの草を食べるものと心得てい	柳田国男	野草雑記・野鳥雑記 野草雑記
	葉	葉	木の芽や草の葉を食べるのは悪いことです	槇本楠郎	原つばの子供会
	知識・知恵	知識	自分の夫の知識を食べるやう夫の本は	室生犀星	愛の詩集
	土	土	?僕はひっきりなしに土を食べるんだ。土 の	村山篤子	みみず先生の歌
	日	日	さも、その日を食べてゆくためには	大倉てる子	魔性の女
	真	真理	しかし私はまだ真理を食べていなかった。	永井隆	ロザリオの鎖
	消化器[腸]	腸	ならない。 腸を食べる方法は、水貝の	北大路魯山 人	鮑の水貝
	両生類[山椒魚]	山椒魚	と、晚餐に山椒魚を食べようとする場合に	北大路魯山 人	山椒魚
	鉄道	鉄道	を食ったり、鉄道を食べたりするような当 節	佐々木 味津 三	右門捕物帖 血染めの手形
	飼料	餌	うなぎでもよい餌を食べている時は美味い	北大路魯山 人	鰻の話
	獣[猫]	猫	、多々良さんは猫を食べるの」「食いまし	夏目漱石	吾輩は猫である
	骨	骨	で、魚の骨を食べさせると吐くんです	夏目漱石	永日小品
	調味料	にんにく	日前から、にんにくを食べているんです。	太宰治	散華
	野菜	葱)く傍から葱を食べちまってる。それより	林不忘	安重根 ——十四の場面——
	ミルク	ミルク	、パン入りのミルクを食べているのでした	ナ サ ニ エ ル・ホーソン 三宅幾三郎 訳	ワンダ・ブック——少年・少女 のために——
	穀物[トウモロ コシ]	玉蜀黍	お八つにゆで玉蜀黍を食べている間に、	宮本百合子	突堤
	果物	茱萸	ばかなやつ。茱萸を食べる犬なんて、はじ めてだ	太宰治	女生徒
	調味料[甘味料]	ジャム	煮た苺のジャムを食べさせながらそのよう な	宮本百合子	生活の道より
	氷	氷	」五百は氷を食べた。 翌朝保	森鷗外	洪江抽斎
	茶	茶)切って、茶を食べてや。 けども	泉鏡花	歌行燈
	肉・卵[肉]	肝	が来て、肝を食べた話をすると	魯迅	狂人日記
	野菜[豆]	隠元豆	はこの場所で隠元豆を食べたであらう彼な ど	坂口安吾	女占師の前にて
制約外の食べ物	根	根	各種の植物の根を食べて生きているが	トマス・ロバ ト・マルサス 吉田秀夫訳	人口論 第一篇 世界の未開国 及び過去の時代における人口に 対する妨げについて
	肉・卵[卵]	玉子	包み、珈琲に玉子を食べたきりで出かけた	宮本百合子	伸子
	穀物	粟	」「お前は粟を食べるのか。」「	宮沢賢治	月夜のけだもの
	きのこ	松茸	がなかった、松茸を食べたいと思ふが、	種田山頭火	行乞記(一)
	野菜[根菜]	芋	云はずその焼芋を食べてしまいました。	与謝野晶子	月夜
	芽	若芽	やがて躊躇なくその若芽を食べ初めた。お どろいて	宮本百合子	日記一九二九年(昭和四年)
	野菜[根菜]	山の芋	て、粕漬や山の芋を食べる時には、つい	薄田泣菫	茶話 大正六(一九一七)年
	野菜	野菜	の人々に、野菜を食べさせたいことだ。	佐藤垢石	食べもの
	調味料[塩]	塩	塩を食べ水をのみ……	宮沢賢治	詩ノート
	作物	唐辛子	熱くして、唐辛子を食べる寒さを凌い	宮城道雄	声と食物
	年	午	でしたら、お午を食べないで、来て	織田作之助	夜の構図
	産物	名物	なく、諸国の名物を食べ歩いたというので	矢田津世子	茶粥の記
	果樹	柿	、大すきな柿を食べています。ごらん	泉鏡花	若菜のうち
	栄養素[脂]	脂	俺は豚の脂を食べやうと思ふ。俺	宮沢賢治	[蒼冷と純黒]
	貝[二枚貝]	馬刀貝	マヽ)しのぶ。馬刀貝を食べつゝ旦浦時代	種田山頭火	行乞記 室積行乞
	野菜	茄子	とももぎたての茄子を食べた、うまい／＼	種田山頭火	行乞記 伊佐行乞
	果物[核果]	桃	……昼食として桃を食べた、おいしかった	種田山頭火	行乞記 仙崎
	残存[残り]	残り	、お弁当の残りを食べ、飴玉をしゃぶり	種田山頭火	四国遍路日記
	野菜[ハーブ]	韭	では、よく韭を食べる。真夏になつて	薄田泣菫	春菜

	果物	果実	…すでに禁断の果実を食べた人間に、かかる	原口統三	二十歳のエチュード
	果物	木の実	立つて愉快地に木の实を食べることが出来る。それ	片山廣子	三本の棗
	液体[その他]	汁	、りんごの絞り汁を食べさせなければならない	林芙美子	幸福の彼方
	果物	熟柿	、戻ってから熟柿を食べて、どうやらさつ	種田山頭火	其中日記(十一)
	穀物[麦]	麦	が仕合せだ。麦を食べると胃の工合は	種田山頭火	其中日記(十三の続)
	果物[梨果]	林檎	真弓が一つの林檎を食べるときでも、その小さな	神西清	水と砂
	穀物	粉	つたから蕎麦の粉を食べる。今日がほんとうの	種田山頭火	其中日記(二)
	コーヒー・ジュース	シロップ	て?ヤマネ シロップを食べています。アリス	ルイス・キャロル & ヘンリー・サヴィル・クラーク 大久保ゆう 訳	不思議の国のアリス ミュージカル版
	果物[ベリー]	莓	に、どれだけ莓を食べさせたでせう	岸田國士	命を弄ぶ男ふたり(一幕)
	味[甘さ]	甘味)いお茶や甘味を食べたことはない	三遊亭圓朝 鈴木行三 校訂	粟田口露笛竹(澤紫ゆかりの咲分)
	野菜[豆]	豆	に、ぼりぼり豆を食べながら繋がって歩いて	吉川英治	宮本武蔵 火の巻
	麺類[蕎麦]	蕎麦	執って、お蕎麦を食べつけました。「	中里介山	大菩薩峠 恐山の巻
	きのこ	椎茸	た熱海の生椎茸を食べる、うまい。階下で	古川緑波	古川ロッパ昭和日記 昭和十四年
	果物	果物	を読んだり、果物を食べたりしていた	林芙美子	新版 放浪記
	果物	栗	する。久し振りに栗を食べた。なかなか甘い。	種田山頭火	白い路
	果物	メロン	、千足屋でメロンを食べた場面である。	中谷宇吉郎	寺田先生と銀座
	野菜	トマト	だった。トマトを食べて、すこし心が	種田山頭火	其中日記(七)
	皮膚	皮	さけもますも皮を食べぬ人があるが	北大路魯山人	塩鮭・塩鱒の茶漬け
	屑・粕	残飯	廊下にあった残飯を食べていた。ところが	石原莞爾	戦争史大観
	肉・卵[鶏肉]	鳥	だけの簡単な鳥を食べた。ただそれだけ	アンブローズ・ピアス 妹尾詔夫 訳	マカーガー峡谷の秘密
	野菜[根菜]	大根	刺身のツマの大根を食べていた。千六本	梅崎春生	幻化
	果物	バナナ	(の)みバナナを食べながら、そんな話を	徳田秋声	縮図
	実	実	と、栃の実を食べている。栃の	高村光雲	幕末維新懐古談 栃の木で老猿を彫ったはなし
	鳥[水禽]	鶴	日の夕食に鶴を食べた。そうしてしばし	谷崎潤一郎	闇書抄 第二盲目物語
	穀物[麦]	燕麦	kgの干し草と燕麦を食べ、1日の窒素	ケニス・J・カーペンター 水上茂 樹訳	栄養学小史
	携帯	もち	なんぞ振りまわしながらおもちを食べてはあぶないよ。	佐々木味津三	右門捕物帖 妻恋坂の怪
	果物	杏	ありさまで、私を食べさせて勉強させ	田中英光	オリンポスの果実
	果物[柑橘類]	蜜柑	。「金の蜜柑を食べたもの。 それ	宮本百合子	小さい子供
	食事	齋	地蔵様がお齋を食べるのかい?」「	国枝史郎	鸚鵡蔵代首伝説
	食事[朝餉]	朝餉	た。翁は朝餉を食べ終ると冷えた身体	岡本かの子	富士
	食事[粗餐]	夕御飯	ました。もう夕御飯を食べますから、明日の	知里幸恵	手紙
	宴会[ランチ]	午餐	で心ばかりの午餐を食べてもらった。寄せ書き	正岡容	隨筆 寄席風俗
	食事[粗餐]	晩食	つて賑はしい晩食を食べた。今日は母	有島武郎	お末の死
	食事[粗餐]	晩餐	汗にまみれて晩餐を食べてゐた真夏の	正宗白鳥	幼少の思ひ出
	昼	お昼	。「うれしい。お昼を食べましょう。授業は	片岡義男	東京青年
	他称[単数]	あれ	ですからね。あれを食べると、体は溶け	宮原晃一郎	蛇いちご
	名詞	其)。さ、其を食べた所為(せい)	泉鏡花	印度更紗
	名詞	何	である。「何を食べるの?」少年が	アーネスト・ヘミングウェイ 石波杏訳	老人と海
	無生物	もの	、「教室でものを食べるのは悪いことだ	織田作之助	青春の逆説
	名詞	物	チブスの病室で物を食べるのは厭だった	佐々木邦	閣下